

十勝川温泉

安心高める発電機

観月苑 ガス式2台導入

【音更】十勝川温泉の観月苑(作田英実社長)は10日、災害対策の一環で、LPガス式自家発電機2台を導入した。2018年9月の北海道胆振東部地震によるブラックアウト(全域停電)を契機に検討し、導入が実現した。



ブラックアウトの際には自家発電機がなく設備会社からレンタルしたが、対応までに時間を要した。また、パソコンが使えずにチェックアウト時の支払いや、情報を得るためのスマートフォン充電、温泉の温度管理などに問題が生じた。

これを機に三ツ輪産業(本社東京、尾日向竹信社長)のグループ会社イーネットワークシステムズ(本社東京、及川浩代表)の帯広営業所(大通南22)に相

談し、LPガス式自家発電機2台を導入。設備投資は約80万円で、道の宿泊事業者感染防止対策事業補助金を活用した。

発電機は、観月苑が業務で使用しているプロパンガスで稼働。ガソリン式やデューセル式に比べて、燃料の備蓄や安全面の不安が少ない。1台の出力は1500ワットで、2台を並列運転することで3000ワットの非常用電源を確保することができる。

プロパンガスボンベ1本(50kg)で、2台を並列運転すれば、投光器(400ワット)、パソコン(25ワット)、スマホ充電器(2ワット)、テレビ(140ワット)、深井戸ポンプ(2000ワット)などを同時に約70時間カバーできる。観月苑の吉田知存総務部長は「宿泊客の皆さんに安心して泊まってもらえる環境を少しずつ整えていきたい」と話している。

(内形勝也)